

Oracle Enterprise Manager

インストレーション・ガイド

リリース 2.0.4

部品番号 :A62835-1

Oracle Enterprise Manager インストレーション・ガイド リリース 2.0.4

部品番号 :A62835-1

第 1 版 :1999 年 4 月 (第 1 刷)

原本名 :Oracle Enterprise Manager Installation, Release 2.0.4

原本部品番号 :A67818-01

Copyright © 1999, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラムの使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当ソフトウェア (プログラム) のリバース・エンジニアリングは禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation (米国オラクル) または日本オラクル株式会社 (日本オラクル) を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation (米国オラクル) およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Legend が適用されます。

Restricted Rights Legend

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication and disclosure of the Programs shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-14, Rights in Data -- General, including Alternate III (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ドラフトのアルファ版およびベータ版ドキュメント

ドラフトのアルファ版およびベータ版ドキュメントはプレリリース状態のもので、これらのドキュメントは、オラクル社の機密かつ所有のドキュメントであり、デモおよび暫定使用のみを目的としたものです。タイプミスからデータの不正確さに至るまでのいくつかの誤りが存在することが考えられます。このドキュメントは予告なく変更する場合がありますが、当ソフトウェアを使用するハードウェアに限定するものではありません。オラクル社はプレリリースのドキュメントに対して、無謬性を保証しません。またそのドキュメントを使用したことによって損失および損害が発生した場合も一切責任を負いかねますのでご了承ください。

Oracle Enterprise Manager インストール・ガイド リリース 2.0.4

このマニュアルでは、Oracle Enterprise Manager 2.0 のインストール手順について説明します。このマニュアルには、次の項が含まれています。

項目	参照ページ
Oracle Enterprise Manager をインストールする前の準備	2 ページ
ハードウェア要件	3 ページ
ソフトウェア要件	4 ページ
Oracle Enterprise Manager のコンポーネント	5 ページ
Oracle Enterprise Manager のインストール	6 ページ
Oracle 製品の削除	13 ページ

Oracle Enterprise Manager をインストールする前の準備

注意： Oracle Enterprise Manager をインストールする前に、『Oracle Enterprise Manager リリースノート リリース 2.0.4』の「インストール」の項を読んでください。

Oracle Enterprise Manager は、コンソール・クライアント、一連のデータベース・アプリケーション、および管理サーバーと Intelligent Agent のネットワークからなる、システム管理フレームワークです。

Oracle Enterprise Manager およびそのコンポーネントは、管理環境によっては、どのような構成でも実行できます。たとえば、個々のコンポーネントを別々のマシン上で実行したり、すべてのコンポーネントを 1 台のマシン上で実行することができます。

Oracle Enterprise Manager 2.0 のアーキテクチャの概要については、『Oracle Enterprise Manager 概説 リリース 2.0.4』の第 1 章および Oracle Enterprise Manager Quick Tour を参照してください。Quick Tour は、Oracle Enterprise Manager とともにインストールされません。

Oracle Enterprise Manager には、次のコンポーネントが含まれています。

- Oracle Enterprise Manager コンソールおよび DBA Management Pack
- Oracle Management Server
- リポジトリ
- Intelligent Agent による Oracle 環境全体の管理ノード

コンソールおよび DBA Management Pack

コンソールは、Oracle Enterprise Manager のクライアントのグラフィカル・ユーザー・インタフェース (GUI) で、データベース管理タスクを実行するための中心的なコンポーネントです。DBA Management Pack ツールには、このコンソールからもアクセスできます。

Oracle Management Server

Oracle Management Server は、コンソールから送られた要求を処理します。リポジトリは、Oracle Management Server のバックエンド・ストアとして、また複数の Oracle Management Server の配置に関する設定を保存するためにも使用されます。

リポジトリ

Oracle Enterprise Manager リポジトリとは、Oracle データベース内の一連の表で、Oracle Enterprise Manager が必要とするデータが格納されます。リポジトリは、Oracle Management Server と接続しているデータベースであれば、どの Oracle データベースにもインストールできます。

管理ノード

管理ノードには、サービスとエンティティが含まれます。サービスには、データベース、Web サーバー、リスナーおよびポケットベル・サービスなどが含まれ、これらは Oracle Enterprise Manager によって管理されます。

ハードウェア要件

構成	マシン	メモリー	ディスク領域
Oracle Enterprise Manager Console、DBA Management Pack、Oracle Management Server、データベース・リポジトリのすべてを 1 台のマシンにインストールする場合	Pentium II 233MHz または SPARC Ultra 1	128MB	*180MB
コンソールと DBA Management Pack のみをインストールする場合	Pentium II 166MHz または SPARC 20	64MB	150MB
Oracle Management Server のみをインストールする場合	Pentium II 233MHz または SPARC Ultra 1	64MB	**150MB

* この値は、リポジトリの初期構成に必要な 30MB を含んでいます。リポジトリの増大によっては、さらに 20MB が必要になる可能性があります。また、Oracle Trace を使用する場合は、さらに 50MB のディスク領域が必要です。

**Oracle Trace を使用する場合は、さらに 50MB のディスク領域が必要です。

重要: このマシンでリポジトリを実行する場合は、Oracle Enterprise Manager をインストールする前に、リポジトリ・データベースを個別のホームにインストールしておく必要があります。前述のハードウェア要件は、リポジトリのデータベースがインストール済みであることを想定しています。

Oracle データベースのシステム要件とハードウェア要件については、データベース・リリースに付属のインストール・ガイドを参照してください。

ソフトウェア要件

オペレーティング・システム	データベース	Web ブラウザ	Web サーバー
Windows NT 4.0	Oracle 8.1.5	Microsoft Internet Explorer 4.x	Oracle Application Server 4.0.7 以降
Windows 95	Oracle 8.0.x	または	Xitami 2.3 以降
または	Oracle 7.3.x	Netscape 4.0.5 以降	または
Windows 98			IIS 4.0
Solaris 2.6	Oracle 8.1.5	Solaris では、Web ブラウザでコンソールを実行できません。	Oracle Application Server 4.0.7 以降
(推奨バージョン)	Oracle 8.0.x		Xitami 2.3 以降
	Oracle 7.3.x		または
			Apache 1.3.x

重要 : Oracle Management Server は、Windows NT 4.0 または Solaris でのみ実行できます。

JRE 要件

Oracle Enterprise Manager を実行するには、Java ランタイム環境 (JRE) が必要です。JRE は、Oracle Enterprise Manager のインストール時に自動的にインストールされます。

Oracle Enterprise Manager のコンポーネント

次の製品は、この CD-ROM でインストールできます。

Oracle 製品	リリース
Oracle Enterprise Manager	2.0.4
Oracle Enterprise Manager ドキュメンテーション (英語版のみ)	2.0.4
DBA Management Pack	2.0.4
SQL*Plus Worksheet	2.0.4
Schema Manager	2.0.4
Security Manager	2.0.4
Storage Manager	2.0.4
Instance Manager	2.0.4
Extended Database Administration	
Directory-Enabled Oracle Security Manager	1.0 ベータ
Replication Manager	2.0 アルファ
Oracle Parallel Server Manager	2.0.4
Oracle8i <i>interMedia</i> Text	2.0.4
Repository Migration Wizard	2.0.4
Oracle Management Server	2.0.4
Oracle Applications Manager (英語版のみ)	1.0 ベータ
Oracle Applications Manager Server Extensions (英語版のみ)	1.0 ベータ
Net8 Client	8.0.4
Oracle Launch Pad	1.0.1
Oracle Universal Installer	1.6.0
Oracle Enterprise Manager Web Site	2.0.4

重要: Repository Migration Wizard は、Oracle Enterprise Manager Migration Assistant と呼ばれます。この機能は、Windows でのみ使用できます。

Oracle Enterprise Manager のインストール

Oracle Enterprise Manager を Windows または UNIX にインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle Enterprise Manager CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. Windows にインストールする場合は、手順 3 に進んでください。

UNIX にインストールする場合は、次の手順を実行します。

runInstaller と入力して、CD-ROM のトップ・ディレクトリから runInstaller.sh スクリプトを実行します。

Oracle ユニバーサル・インストーラの実行中に、Xlib エラーまたは " サーバーへの接続に失敗しました " エラーが発生した場合は、環境変数を次のように設定します。

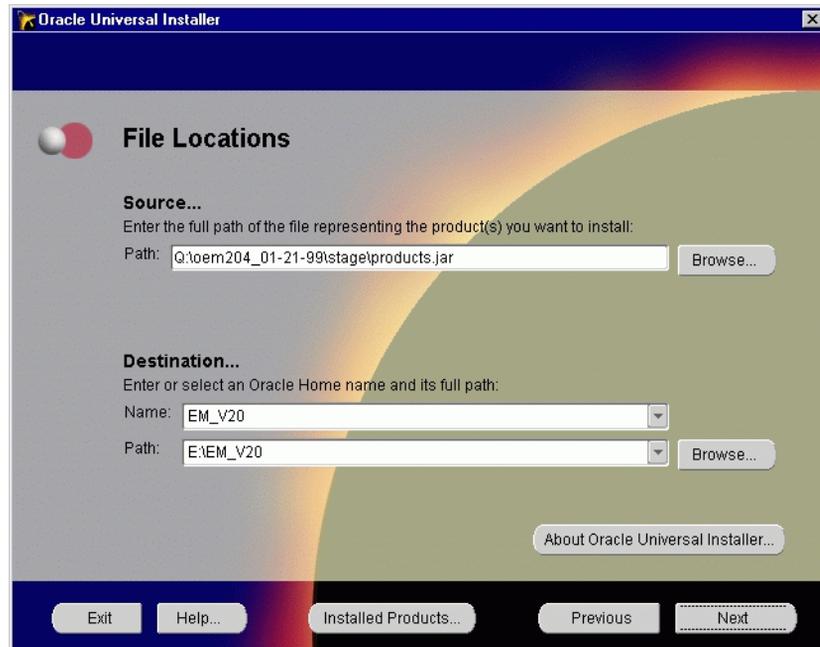
```
%setenv DISPLAY <マシン名>:0.0  
%xhost +
```

その後で、再度 runInstaller スクリプトを実行します。

手順 4 に進みます。

3. 「Oracle Enterprise Manager Autorun」ウィンドウに、次のオプションが表示されます。
 - 「インストールを開始」
 - 「CD-ROM を検索」
 - 「情報を見る」「インストールを開始」をクリックします。
4. Oracle Universal Installer の「ようこそ」ウィンドウが表示されます。「次」ボタンをクリックして、継続します。

5. 「ファイルの場所」ウィンドウが表示されます。



「ソース」セクションの「パス」フィールド内の情報は変更しないでください。

「パス」フィールドには、Oracle Enterprise Manager コンポーネントをインストールする際に使用する products.jar ファイルへのフル・パス名が記述されています。

6. 「宛先」セクションの「名前」フィールドに、Oracle Enterprise Manager をインストールする Oracle ホーム・ディレクトリの名前を入力するか、またはドロップダウン・リストからその名前を選択します。たとえば、次のようになります。



ホーム・ディレクトリが作成されていない場合は、ここで入力した名前のホーム・ディレクトリがインストール中に Oracle Enterprise Manager によって自動的に作成されます。このホーム・ディレクトリは、次の手順（手順 7）で選択したドライブ上に作成されます。

Oracle ホームについては、次のガイドラインに従ってください。

- Oracle Enterprise Manager を、別のバージョンの Oracle Enterprise Manager と同じホーム・ディレクトリにインストールしない。
- Oracle Enterprise Manager バージョン 2.0 を Oracle 8i (Oracle 8.1.5) の一部として入手している場合は、Oracle 8.1.5 のホームとは別のホームに、Oracle Enterprise Manager クライアント、Oracle Management Server および管理アプリケーションをインストールする。
- Windows でのポケットベル機能と、Windows および UNIX での Oracle Applications の管理を使用可能にするエージェント拡張機能をインストールする場合は、Intelligent Agent と同じ Oracle ホーム・ディレクトリにインストールする。

重要： Oracle ホーム・ディレクトリの名前が次の条件を満たしていることを確認してください。

- 1 ~ 16 文字
 - 英数字とアンダースコアのみを含む
 - 空白は入れない
-
-

7. 「宛先」セクションの「パス」フィールドに、Oracle ホーム・ディレクトリの適切なパス名を入力するか、またはドロップダウン・リストからその名前を選択します。たとえば、次のようになります。



The image shows a text input field with the label 'Path:' on the left. The field contains the text 'E:\EM_V20'. To the right of the field is a small downward-pointing arrow icon, indicating a dropdown menu.

入力したパスが現時点で存在していなければ、インストール中に作成されます。

「ファイルの場所」ウィンドウ内のすべてのフィールドに入力します。

「次」ボタンをクリックして、継続します。

Windows NT にインストールする場合は、手順 10 に進んでください。

Windows 95/98 にインストールする場合は、手順 11 に進んでください。

UNIX にインストールする場合は、手順 8 に進んでください。

8. 「Unix グループ名」ウィンドウが表示されます。

このシステム上で Oracle ソフトウェアを更新する許可を持つ UNIX グループ名を指定するには、空欄にそのグループ名を入力して、手順 9 へ進んでください。

root のみに許可を与える場合はフィールドを空白にしたまま、「次」をクリックして手順 10 へ進んでください。

9. インストールを継続する前に、root 権限で実行する必要がある操作を説明するダイアログ・ボックスが表示されます。

これらの操作は、`/tmp/OraInstall/orainstRoot.sh` と呼ばれる Bourne Shell スクリプトに保存されています。

次のいずれかを実行します。

- ここで `/tmp/oraInstall/orainstRoot.sh` スクリプトを実行し、次に「再試行」をクリックしてインストールを継続する。

または

- 「終了」をクリックする。

`/tmp/OraInstall/orainstRoot.sh` スクリプトを実行する。

インストーラを再起動する。

10. 「使用可能な製品」ウィンドウが表示されます。

次の製品オプションのうちインストールするものを 1 つ選択します。

- 管理サーバーと Enterprise Manager クライアント 2.0.4.0.0

これを選択すると、中間層の Oracle Management Server、Oracle Enterprise Manager コンソール、DBA Management Pack がインストールされます。

- Oracle Enterprise Manager クライアント 2.0.4.0.0

これを選択すると、Oracle Enterprise Manager コンソール、DBA Management Pack がインストールされます。

- エージェント拡張機能 2.0.4.0.0

これを選択すると、Windows でのポケットベル機能と、Windows および UNIX での Oracle Applications の管理を可能にする、Oracle Intelligent Agent への拡張機能がインストールされます。

オプションを選択して、「次」ボタンをクリックして続けます。

エージェント拡張機能を選択した場合は、手順 12 に進んでください。

Windows NT にインストールする場合は、『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド リリース 2.0.4』の第 6 章「NT 用ポケットベル・サービスの構成および起動」も参照してください。

それ以外の場合は、手順 11 に進んでください。

11. 「インストールの種類」ウィンドウが表示されます。

「標準」インストールまたは「カスタム」インストールのどちらかを選択します。

- 「標準」インストールでは、選択された製品およびデフォルトのコンポーネントがインストールされる。
- 「カスタム」インストールでは、選択された製品の一部としてインストールする特定のコンポーネントを選択できる。コンポーネントの中には、マシン内でのインストール場所を選択できるものもあります。

「次」ボタンをクリックして、続きます。

「標準」インストールを選択した場合は、手順 15 に進んでください。

「カスタム」インストールを選択した場合は、手順 12 に進んでください。

12. 「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウに、インストールする製品とともにインストールされるコンポーネントのリストが表示されます。

削除する項目またはインストールしない項目のみ、チェックを外します。すでにインストールされている項目のチェックを外すと、その項目が削除されます。

エージェント拡張機能を Windows にインストールする場合は、次の 2 つのコンポーネントのみがインストールされます。

ポケットベル・サービス・エージェント拡張機能

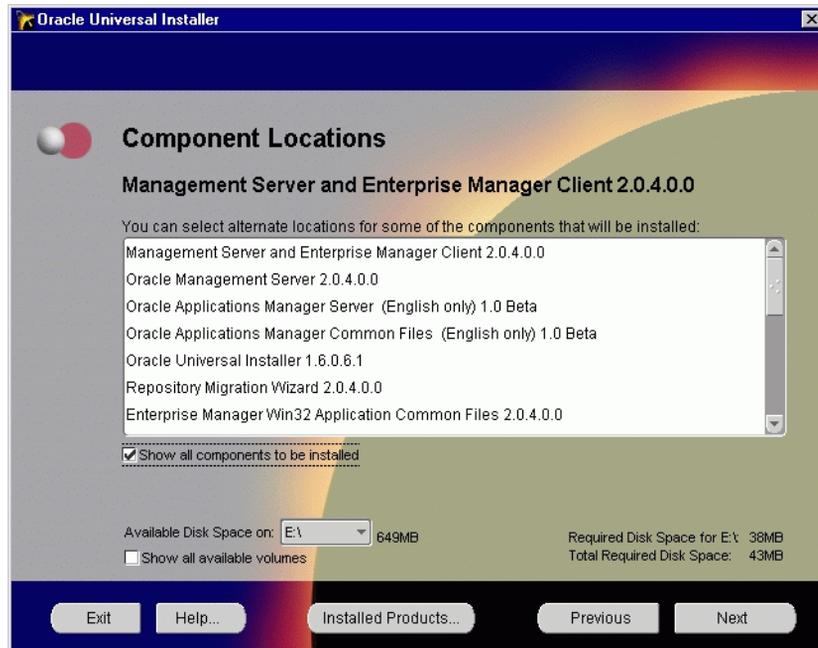
および

アプリケーション管理エージェント拡張機能

エージェント拡張機能を UNIX にインストールする場合は、アプリケーション管理エージェント拡張機能のみがインストールされます。

インストールするコンポーネントを決めたら、「次」ボタンをクリックして、続きます。

13. 「コンポーネントの場所」ウィンドウが表示されます。



「コンポーネントの場所」ウィンドウでは、次のことを実行できます。

- 「インストールされるすべてのコンポーネントを表示」ボックスをチェックして、インストールするすべてのコンポーネントのリストを表示する。
- リスト内のコンポーネントをクリックして、コンポーネントの格納場所を変更できるかどうかを調べたり、コンポーネントをインストールする場所を調べる。コンポーネントの格納場所を変更できる場合は、空のボックスが下に表示されるので、新しい格納場所の名前を入力します。また、「場所の変更」ボタンをクリックして、新しい格納場所を参照することもできます。
- 別のディスク・ドライブ上に使用可能な領域があるかどうかを調べるには、「使用可能なディスク領域」フィールド内の矢印を選択する。

すべてのコンポーネントに対しその場所を決めたら、「次」ボタンをクリックして、継続します。

Oracle Enterprise Manager クライアントのみをインストールする場合は、手順 15 へ進んでください。

それ以外の場合は、手順 14 に進んでください。

14. Oracle Enterprise Manager クライアントおよび Oracle Management Server の両方をインストールする場合は、「サーバー・リポジトリ」ウィンドウが表示されます。

次のオプションのうちの1つを選択します。

- 「管理サーバーは既存のリポジトリを使用」
- 「管理サーバーは新規のリポジトリを使用」

Oracle Enterprise Manager リポジトリとは、Oracle データベース内の一連の表で、Oracle Management Server と接続することで任意の Oracle データベース内に置くことができます。

オプションを選択して、「次」ボタンをクリックして続けます。

Oracle Applications Manager をインストールする場合は、「重要な構成情報」ウィンドウが表示されます。継続する前に、Oracle Applications Manager を Oracle Management Server に手動登録する作業について、このウィンドウの指示に従ってください。

15. 「サマリー」ウィンドウに、インストレーションのアウトラインが表示されます。

「インストール」をクリックします。

「インストール」ウィンドウに、インストールの状況が表示されます。

16. このマシンから Oracle Management Server を実行している場合、インストールの完了時に「構成ツール」ウィンドウが表示されます。

この時点で Oracle Configuration Assistant が自動的に実行されます。

Oracle Configuration Assistant の使用方法とリポジトリの作成およびロード方法については、『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド リリース 2.0.4』を参照してください。

Oracle Configuration Assistant が正常に実行されたら、「次」ボタンをクリックして続けます。

17. 「インストールの終了」ウィンドウが表示されます。

Oracle Universal Installer を終了するには、「終了」をクリックします。

Windows 95 または Windows 98 を使用している場合は、Oracle Enterprise Manager を実行する前にマシンを再起動してください。再起動すると、JRE へのパスが設定されます。

重要 : Oracle Enterprise Manager およびすべてのコンポーネントが正常に動作するためには、正しく構成されている必要があります。Oracle Enterprise Manager およびそのコンポーネントの構成方法と起動方法については、『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド リリース 2.0.4』を参照してください。

Oracle 製品の削除

Windows または UNIX にインストールされている、この Oracle 製品およびその他の Oracle 製品を削除するには、次の手順を実行します。

1. すべての Oracle サービスを停止します。
2. Windows の場合は「スタート」メニューから、UNIX の場合はコマンド・プロンプトまたはインストール・ディレクトリから、Oracle Universal Installer を起動します。

または

CD-ROM から次の操作を実行します。

Windows の場合

「Autorun」ウィンドウで「インストールを開始」をクリックします。

UNIX の場合

`runInstaller` スクリプトを実行します。

3. Oracle Universal Installer の「ようこそ」ウィンドウが表示されます。
「製品の削除」ボタンをクリックします。
4. 「インベントリ」ウィンドウが表示されます。
削除する製品を選択し、「削除」ボタンをクリックします。
5. これらの製品とその依存コンポーネントを削除するかどうかを確認する別のウィンドウが表示されます。
「はい」ボタンをクリックします。
6. Oracle Universal Installer は、特定の製品を削除した場合に問題が生じる可能性のある製品の依存コンポーネントを警告し、削除の確認を求めるプロンプトを表示します。

